

感染症ニュース

No.251 2026/03/27

文責：竹鼻 純子

<流行中の感染症>

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）

新型コロナウイルス感染症発生当初に比べると症状が軽くなり、受診しないまま行動し続ける方が多くなったため、流行が拡大しやすくなっており、今年に入ってから増加傾向が続いている。しかし、やはり高齢者は重症化しやすいので、今後も高齢者の重症化予防のためには、新しい流行株に対応したワクチン接種や、高齢者施設などでの徹底した感染予防策の継続が必要で、普段の生活でも基本的な予防策を継続し、手洗いに加え、特に3密となるような場面ではマスクを着け、よく換気することが大切である。

インフルエンザ

例年より早く、昨年11月からA香港型（H3N2型）の変異株「サブクレードK」が大流行していたが、今年に入ってからではB型が流行していた。ワクチン接種済みでも感染して発症する可能性はあり、また、A型に感染した後でB型にも感染することもあり得るため、感染予防策に加えて、栄養を摂り、休息・睡眠をとって、免疫力を落とさないようにすることが重要。

溶連菌感染症

発熱、のどの痛み、発疹が主症状で、小児のみならず成人の感染も多く、コロナ明けから高水準で流行が続いている。再感染や再発例も多い。経口抗生剤が有効だが、症状が治まっても10日前後服用を続けないと腎炎などの合併症を併発する。

感染性胃腸炎

今年は、全国的にノロウイルスによるウイルス性胃腸炎の食中毒が多く発生し、富山県でも複数の報告あり。ノロウイルスにはアルコール消毒は効かないので、石鹸による手洗いを徹底する。